

## 令和3年度 第1回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 令和3年7月30日(金)  
10:00 ~ 11:30  
場 所 志摩市役所4階 401・402 会議室

### 出席者(順不同・敬称略)

(1) 審議会委員(11名)

牧谷拓、柴原行正、岩崎恭彦(会長)、齋藤平(副会長)、山本澄子、田中清人、清水久史、杉本公紀、東川清加、森本洋司、井上摩紀

(2) 事務局(3名)

箕浦勤、井上辻明、西山顕一郎

傍聴者…2名

### 事項書1. あいさつ

【岩崎会長】

皆様、おはようございます。

コロナ禍の大変な状況の中で、それぞれの立場で地域活動に熱心に取り組んでいただき、どうもありがとうございます。本日も皆様が今直面されている状況などについて、ぜひお声を聞かせていただきたいと事務局が願っておりますので、活発なご議論をお願いいたしたいと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】

委員16名中11名の出席により会議が成立していることを報告。(志摩市地方創生審議会条例第5条第3項)

志摩市地方創生審議会条例第4条第3項及び第5条第2項の規定に基づき、議事進行を岩崎会長に依頼。

### 事項書2. 議事(1) 令和2年度の実績報告について

【岩崎会長】

事項の1番目、令和2年度の実績報告について、事務局からの説明を求めます。

#### 《令和2年度の実績報告について》

[事務局説明]

「第2期志摩市創生総合戦略」の令和2年度の実績について説明。

【岩崎会長】

志摩市創生総合戦略も第2期に入りまして、実績報告のあり方が大きく変わりましたので、ここで皆様にどのような観点、視点からご意見賜りたいかということについて少し確認をさせていただ

きます。

1点目は、コロナ禍の厳しい状況の中で、ほとんど実施できていないような事業も少なからず存在します。ですので、この中で皆様が日々、地域の中でお感じになっていることですか、あるいはアフターコロナを見据えて、この中でも地域を元気にしていくアイデアなどがございましたら、ぜひご意見いただければと思います。

2点目は、この評価シート、効果検証シートを新たに作成していただきました。例えばこの1ページの、基本目標評価シートをご覧くださいと思います。今回から各年度の目標値に対して、どれくらい実績があったのか、目標値と実績値を対比した時の達成度として、AからDまでの4段階評価をつける、こういうような形になっています。

そして、この欄が一番重要だと思うのですが、この達成度に対してその評価と今後の方向性ということで、市の内部でこの達成度について検討した結果、今どういう課題があるのか、それに対してどういうふうに対策をとっていくのかという分析・評価が示されています。

この市の内部での分析や評価に対して、果たしてそれで不十分なところがないかどうか、適正な評価がされているのかどうかについて、皆様の目線から見ていただいて、いろいろ外部からさらにその内部の評価を評価するっていうようなことになろうかと思いますが、そうした市の内部評価に対しての皆様の受けとめについて、特にご意見いただけるといいのかなというふうに思います。

それでは、事務局からの説明につきまして、ご意見、質問等はございませんか。

#### 【杉本委員】

本日、一般職業紹介状況を厚生労働省が公表しておりまして、全国的には1.13倍という数値ですけども、三重県の有効求人倍率は、1.1倍ということで、全国平均の方が上にはなっておりまして、三重県の順位は、全国で第26位という形になっております。伊勢市管内の方の求人倍率は1.10倍で、前月よりは上がってきているという形にはなっておるんですけども、ハローワークの方の状況としましては、新規の求職者の方は減ってきておるような状況で、求人の方は、若干盛り返しておるような状況もあってですね、ワクチン接種の関係とかも減っているのかもわかりませんが、そういう状況の中で動いているという形ですので、ハローワークとしましては、志摩市の方では、志摩市ふるさとハローワークを通じて、引き続き雇用の方の連携をとっていきたいと思っております。

あと、高卒の方の求人の状況ですけども、6月から求人を受け付けておりまして、前年度並みくらいで求人は出していただいておりますが、いつも出していただいております会社さんから出てきてないという部分もあるのですが、新しく高卒の方を取りたいということで、新しい企業さんが求人を出していただいているような状況もありまして、全体としましては、前年度並みで進行しているという状況です。

#### 【東川委員】

「豊かで暮らしやすい地域を創る」という施策の6)－5SDGs未来都市の推進のところ、KPI「SDGsの内容を理解している市民の割合」の達成度が「A」となっているにもかかわらず、課題・改善案等のところでは、「言葉も内容もわからない」といった層が全体の半数あるということで、矛盾を感じたので、数値は達成しているが、こういった課題があるので「A」ではないといった判断にならないのかなど。この内容に対して、市民の割合をKPIに定めるのであれば、そういったと

ころが課題として見えているのであれば、評価は検討すべきではないでしょうか。

また、今、新型コロナウイルス感染症の影響で、主幹産業である観光が影響を受けているという中で、オリンピックが開催されていて、サーフィンで日本人が活躍したということで、サーフィンに対して魅力を感じた方が多くいると思います。志摩市は、サーフィンのスポットとして売り出している部分があると思いますので、そういった状況を志摩市の魅力発信につなげていく、いい機会だと思いますので、コロナの影響を受けているなか、使えるツールは使って、魅力を発信していけば、観光にも移住にも効果があると思います。そういう情報発信は、今だからすべきだと思います。

#### 【事務局】

1点目の評価のところですが、達成度につきましては、客観的な評価ということで、あくまで数値に対する達成度という形で出しております。そして、「評価と今後の方向性」の欄において、達成度としてはこういう結果だが、課題としてはこういうものがあり、こう改善していくということを示しております。評価の方法につきましては、今後、検討はさせていただきたいと思いますが、現在の評価としてはこのような形となっております。

2点目のサーフィンを活用した魅力の発信についてですが、現在、行政とサーファーの皆さんで構成する「志摩市サーフィン活用推進協議会」が立ち上がり、サーフィンを活用した地域活性化のため、様々なことに取り組んでおります。

総合政策課では、昨年度は、移住パンフレットの製作協力をいただいております。今年度は、協議会の方に協力いただいて、移住のPR動画を作成しております。また、観光面においても、トリックアートの設置など、様々な取り組みを行っておりますので、今後もしっかりと連携し、志摩市の特色を活かしたPRをしていきたいと思っております。

#### 【岩崎会長】

先ほど出していただいたご意見が重要だと思っております。「A」「B」「C」「D」の4段階評価は、客観的な評価というお話ありましたが、目標値と実績値を照らし合わせて、「A～D」というのは客観的に決まってしまうので、いろいろ課題があっても、「A」とか「B」がつくってということはやっぱあるんですね。

ただ、「A」「B」「C」「D」で、量的な評価はできても、質的な評価がなかなか難しいというご指摘だと思いますので、そうした部分については、しっかりとその課題と改善策のところフォローアップができているかどうかということ、委員の皆様にも厳しく見ていただいて、ご意見ご発言いただければというふうなことではないかなというふうに思っております。

2点目もすごく重要なお話で、今コロナの状況の中で、観光がどうなっているのかということ、多くの方ご心配いただいたり、ご関心持っていただいているところだと思っております。この点に関しまして、柴原さんもしよろしければ、今のこの観光やスポーツの状況などについてお話しいただければと思います。

#### 【柴原委員】

スポーツという観点で見ますと、サーフィンもありますが、トライアスロンの関係で、浜島には、関西圏から自転車の関係で多くの方に来ていただいております。コロナ禍ということで、受け入れ態勢に課題があったのですが、休日には練習をしに多くの方が志摩の方に来ていただいておりますという状況です。

それと、現在、ビーチの方も開設しておりますが、やはり休日になるとすごい状況で、車のナンバーを見ると中部圏が多いのですが、親子連れで、駐車場がいっぱいになるくらい来ていただいております。

また、シーズンオフに、モニタリングツアーを実施したのですが、シーカヤックを親子連れに体験していただいたところ、やはりきれいな海ということで、非常に好評をいただいております。

三重県初だと思いますが、今年から大矢浜に、ライフセーバーを1名配置しておりますので、そういう安心感がある中でということで、まだ始まったばかりですが、カヤックの貸し出しが人気となっております。これから、マリンスポーツ、マリアクティビティに関して、トライアスロンのほか、ビーチラグビー、ビーチサッカーといった通年で動けるようなものを展開するにあたって、新型コロナウイルスの影響で、逆にこういったアウトドアスポーツが人気というのが、アンケート結果でも出ています。

#### 【岩崎会長】

ありがとうございます。

その他、ご意見はいかがでしょうか。

#### 【田中委員】

3) - 1 の情報発信の強化というところで、市の公式ホームページの年間アクセス数ですが、平成30年の基準値から、かなり伸びておりまして、いいことだと思います。

私もそうですが、このコロナ禍の中、いろいろ検索して調べて、そこに行こうかなということが多くなった気がします。今もやっていただいているとは思いますが、これを利用して、人の流れを掴んで、観光にもどんどん活かさせていただければと思います。

金融機関としましても、地域への投資とか、いろいろ支援している中で、お客様の中にも、補助金の需要というのは、多くなってきております。県や国の補助金というのは非常に書類が多く、なかには、誰かに頼まないといけないというのがあると思います。そういったところで、簡略化できるところはしていただいて、地域の事業者さんが喜んでいただけるような状況になればと思っております。

#### 【事務局】

ホームページのアクセス数の増加につきましては、確かに新型コロナウイルス感染症の影響も、大きいと思っております。

情報発信につきましては、志摩市ではホームページの他に、市のアプリというものもありまして、それを活用した情報発信も行っております。また、ワクチンの予約の関係でも活用をしておりますが、ウェブ上でいろんな申請ができるシステムも現在、活用を行っております。そういった形で、皆様に情報が届きやすく、見やすく、活用しやすいよう情報発信というのは心がけていきたいと思っております。

また、K P I の算定でも使いましたアンケート調査でも、どのような手段で市民の皆様が情報を得ているかということも、分析をしております。年代別では、若い世代はホームページ、SNSが多く、年齢が高い世代では、紙媒体が多いというふうなところも出ておりますので、そういった年齢層やターゲットに応じた情報の発信の手段というの、検討し、効率的にかつ確実に必要な方に情報が伝わるように努めていきたいと思っております。

### 【岩崎会長】

コロナ禍の状況の中で、DX（デジタルトランスフォーメーション）が加速度的に進んでいますので、ぜひ、志摩市の地方創生の中でもDXへの取り組みなどについても推進していただければと思います。

### 【山本委員】

教育関係ということで、1)－1 地域とつながる教育の推進の中で、「自分の住んでいる地域が好きだという中学生の割合」が高いということで、この結果は非常に私たち教育関係者にとっても嬉しい結果だと思います。小学校では、「私と家族」とか自分の生い立ちから始まって、地域の探検とか、地域から生み出される産業についてなど、そういった学習に取り組み、中学校では職場体験などで、もう少し広く志摩市のことを知っていくということで、そういった学習を通して、こういった結果が出たのかなというあたりでは、なるほどというふうに、思っております。

それから、1)－2 未来を創る人材を育む教育の推進のところですが、国のギガスクール構想の後押しもありまして、一気に昨年度から、1人1台端末が、学校の方に導入されまして、今、先生の方がそれを指導するための方法を学ぶのに追われているところというのが現実なんですけれども、子どもたちは本当に覚えるのが早くて、先生の先に行くぐらいどんどん使っています。

浜島小学校では、この夏休みには、1年生から6年生まで、全員がタブレット持ち帰りまして、ライブラリーというアプリで、学習をしてみたり、それから、グーグルミートを使いまして、双方向のやりとりっていうこともできるというような状況も確認しました。

こういった環境を整えていただきましたので、やはりこの先もコロナ禍の中ということを考えると臨時休校ということも視野に入れて、1人1台タブレットを使って、すべての授業ができるわけではありませんが、子どもたちの安否確認といいますか、今日も元気であるとか、ちょっと勉強がわからないところとか、学習にも使えるなということで、みんながそれができるという状況を早く作っていききたいなと思って努力しているところです。

それからALT、外国語指導助手派遣事業の方も大変ありがたく使わせていただいております。3年生は毎週、英語の時間がありますので、その時に、ALTの方が来てくださってネイティブの発音であるとか、文化の違いということ、実際に体験するというのをさせていただいております。こちら75%っていうあたりがちょっと低いかないという気はするんですが、「A」という評価は、妥当な評価だと思っております。

コロナ禍の中でということと言いますと、昨年度は、コロナが一体どういうものなのか分からない状況のなか、本当にいろんなことがありました。学校は3か月近くの休校という状態があって、本当に何もできなくてプリント学習、プリントを配って学習してもらおうというような状況だったんですけど、今年は感染症対策の方もいろいろ確立されてきているので、できることをやっていこうということで中学校の方では運動会を実施しました。小学校は、保護者の方がたくさん来られますので、中学校よりは密になることが予想されましたので、残念ながら秋開催に延期をしております。

ですが、いろいろ音楽の授業なども、大きなシールドを置いて、できることをやっていくということで、ずっと取り組んでおります。小規模校においてはPTAの総会等もできましたし、やはり感染対策をきちっとしながら、できる行事をやっていききたいなというふうに考えております。

以上です。

### 【岩崎会長】

いつ収束するのか、見えないという大変な状況の中で、努力されておられると思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

### 【事務局】

いただきましたご意見に対して、市の分析の補足をさせていただきます。「自分が住んでいる地域が好きという中学生の割合」は目標値を達成しており、確かに教育の部分では成果が出ているかと思えます。また、基本目標評価シートの1)でも、地域に誇りを持っている市民の割合は全体で言いますと、達成度は「B」となっておりますが、細かく分析していきますと10歳代では70%、20歳代では、80%を超えているという結果も出ておりますので、この部分でも若年層、教育の部分では成果が出ていると分析しておりますので、その辺りは引き続き学校現場にもご協力いただきながら、進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

### 【森本委員】

地方創生の取り組みの中で、企業誘致の推進に関しまして、達成度が「C」や「D」となっていますが、これは志摩の特性もありますが、本当に難しいことだと思います。距離的なことや、車が必要なこと、それと若者が就労できる場所が少ないことがあるかと思えます。私が住んでいる地域は、志摩のなかでも鳥羽や伊勢に近いのですが、空き家が本当に増えています。ですので、空き家対策として、都会の方に来ていただく、セカンドハウスとして活用していただくというのでもいいかと思えます。

また、先ほど柴原さんのお話にもありましたが、浜島や賢島など、観光客の方が多く来ています。夏休みには、関西地方や中部地方から多くの方が来られると思いますが、観光客も来てほしいですが、移住や定住してくれる方が増えてほしい。また、結婚の支援など、魅力のある施策を実施していただいて、若者に定着してもらうことも必要だと思います。

### 【田中委員】

1) —1 地域とつながる教育の推進で、「将来は地域に暮らしていきたいという高校生の割合」が、目標値から比べると実績値が少ないということでございます。それに対する評価ですが、1度は市外へ出たいという割合が高いということが書いてありますけれども、これは一言で言えばUターン、外へ出たいという割合が高いと、これに集約されるんですけども、この言葉の背景には、先ほど別の委員が言われたように、雇用の問題であったり、そういうところが非常に大きいんじゃないかと思えますので、もうちょっと深掘りして、評価とか今後の対策を考えるべきだというふうに思います。

それと、さっきの意見ともリンクするんですが、金融機関として、今の各種補助金等を利用した事業転換や起業をしたいといったお客さんが結構います。例えば、グランピングや、空き別荘や空き屋を活用した事業を考えている人も結構いると思います。ですから、そういうものに投資するような補助金であったり、施策は非常に有効だと思いますので、もっと使いやすいような補助金があればいいかと思えます。

また、スポーツとも関係するのですが、志摩の魅力である自然は、今の時代に非常にフィットしていると感じます。柴原委員が言われたようなスポーツとの連携など、複合的な対策を取っていけばもうちょっと志摩の魅力が高まるのではと思います。



ですので、今回のコロナの影響で、地元の方への感謝と、売れなかった部分では、それだけ観光客の方が来ていたんだなということを改めて実感しました。

また、農業経営基盤の強化に取り組んだ人への支援や営農継続支援対策など、昨年、一昨年は、そういうものに本当に助けられました。農業をやっていく上で、ビニールハウスで作っているんですが、やはり施設は消耗するものなので、ビニールを張り替えや、冬場保温するものとかは、やはり耐用年数というものがあって、去年や一昨年は結構、大きな額だったんですが、市の助成の方があって、それをやってもらってよかったですと思います。

農業をやっていると思うのが、農業は生きていくのに必要なものなので、いきなり稼げるわけではないですけど、地道にやっていけば、しっかり食べていけるようにはなるんですが、やはり作りこませていない人が多いという印象です。

やはり教える人がいないというのが大きくて、農協でも農業塾をやっていたりしますが、それ一本で食べていけるレベルにしようと思うとやはり大変かなと思います。釣り人と漁師は違いますが、家庭菜園している人と農業をする人は、境目が曖昧な感じがします。きっちり家庭菜園をやっている人と農業をやっている人が区別できるようにならないといけないのかなと。大手でちゃんとプロを育成するっていうのが今後の課題かなと思っています。

事業点検シートを見ても、新規就農や新たに農業経営基盤の強化に取り組んだ人数というのがありますが、いかに新規参入していただくかという施策はありますが、どう継続していただくかというところは弱い部分があると思います。数が増えればいいということではなくて、続けていけるというか育っていける人をどうやって作るか。

農業はそんな単純なものではなくて、私も10年以上やっていますが、すごく奥が深くて、どこでスタートするとか、始めたら作れるようになっていっている人が結構多くて、どんな場所で始めるかというのもすごく大事で、私も始めてからもっといい場所でやった方が良かったのかとか今ももがいてやっているところです。

#### 【齋藤委員】

特に地方創生としては、人口がどのように減らないようにするかというのが一番のポイントになるかと思いますが、人口の状況はやはりコロナの影響もあり、目標値を下回る結果になっているということです。これも、いろいろな施策を講じたので、2,000人を下回る数値で収まったという捉え方もあるかもしれません。

また今後、DXが進んでいって、テレワークの推進ということが期待されていますが、現在の社会の状況を見ていますと、都市部の大手企業でもテレワークが苦手ということがあります。県内の企業と共同でやっている活動があるんですが、講演会や研究会をオンラインでやりましょうといったら、その企業がパソコンをネットに繋ぐのは、本社へデータを送るときだけで、勝手に自分のパソコンをネットに繋ぐことはできないということがありました。これは、その企業だけでなく、全国の企業で同じことがあるかと思いますが、この辺りは、社会的に解決されなければならないことですが、このような問題が起こると、ますます慎重にならざるを得ないということになりますので、ワーケーションやテレワークを使った人口増というのは、急速には進まないかと思いますが、むしろ、学校現場の方が早く対応できて、その後、社会の方が対応してくるのかなという印象を持ちました。

#### 【事務局】

人口の状況につきましては、目標値を下回っているということで、厳しい状況であるとの認識を

持っております。ただ、施策の成果により、この数値で収まったのか、という分析もあろうかとは思いますが、確かに人口をいきなり増やすというのは、難しい政策だとは思っておりますので、例えば、ワーケーションやテレワークが進んでいく中で、まずは、観光客などの交流人口でも、移住者でもない関係人口を創出して、市外との交流を活性化させて、それをのちのち移住・定住につなげていくということに、現在、取り組んでおります。もちろん、移住された方への支援を行い、定住へと繋げていく施策も展開しておりますので、そちらとも合わせまして、取り組みを進めてまいりたいと思っております。

## **議事（２）地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の活用について及び**

## **議事（３）地方創生推進交付金に係る地域再生計画の認定について**

### **【岩崎会長】**

議事（２）及び（３）につきましては、報告事項だと思っておりますので、まとめて説明をお願いいたします。

### **[事務局説明]**

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の制度概要及び状況について及び地方創生推進交付金に係る地域再生計画の認定について、資料に基づき説明。

### **【岩崎会長】**

ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

いずれも重要な事業だと思っておりますので、進捗状況につきましては、またこの審議会でもご報告いただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

### **【岩崎先生】**

その他、ご意見、ご質問等はよろしいでしょうか。

それでは、事務局から案内等がございましたらお願いいたします。

### **【事務局】**

その他の事項としまして、資料としてお配りしております、「まち・ひと・しごと創生基本方針 2021」についてご説明をさせていただきたいと思っております。

先般6月18日に、国の基本方針が閣議決定されまして、地方創生の政策の方向性などが示されております。基本方針では、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた、基本的な方向性が大きく出されております。そして、それを踏まえた地方創生の3つの視点として、「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」の視点が示されております。

当市におきましても、今後の方向性として、ワーケーションの推進など「ヒューマン」にありますテレワークの推進や関係人口の創出に取り組むこととしておりますし、DXの推進などにも取り組んでおります。

また、「グリーン」にあります脱炭素社会の実現に関しましては、先日、国が開催している企業版ふるさと納税に関する、企業と地方公共団体とのマッチング会に参加しましたところ、現在、企業が地方自治体のどのような施策に注目しているかということに関しまして、やはり脱炭素の取り組

みに注目している企業が多くありました。

このように、国の方向性や社会情勢なども施策に取り入れながら、地方創生の推進を図ってまいりたいと思っております。

基本方針のその他の点につきましては、また資料をご覧いただきたいと思っております。

次回の会議につきましては、令和3年11月頃を予定しておりますので、またご連絡いたしますので、どうかよろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

**【岩崎会長】**

それでは、これで令和3年度第1回志摩市地方創生審議会を終えたいと思っております。

以上